

2019年12月24日(火)

老球の細道515号

「坂下バンビクリニック」終了

会津バスケットボール協会 室井 富仁

先週は親戚や教え子家族の突然の死などで通信を書く暇がなく、珍しく2週間も隙間が空いてしまった。止まらずに歩き続けることの難しさ、そして改めて人生の無常迅速の理不尽さを身にもて感じる今日この頃である。

ずっと前に書かなければならなかったテーマを今書かなければならない。現在各カテゴリーにおいて、日本バスケットボール協会がすすめるリーグ戦が行われている。わが会津地区でもU-12、U-15、U-18のリーグ戦が今年度はすでに終了したようだ。このような企画はすばらしいのであるが、目的、目標をきちんと設定して実施しないと、ただゲームを消化しているだけになり、「この忙しいのに時間の無駄」と嘆きの声が聞かれるのではないかと危惧してしまう。

同じような試みを数年前から実施しているチームがある。坂下ミニバスケットボールチームである。監督の鈴木新氏、コーチの二瓶誠二氏によって企画され、保護者が大会役員を組織して年間5回にわたるリーグ戦を見事に運営している。あちこちで「何とかカップ」という大会を運営することはよく聞かすが、単独チームが年数回にわたって、男女合わせて12チームも参加するリーグ戦イベントは他に例がないのではないだろうか。

そしてさらに異例なのは、試合を始める前に私の「バスケットボールクリニック」を選手、指導者が全員受講してからゲームを始めることである。せっかく多くのチームが集まるので、皆でバスケットボールを勉強して、それをゲームに活かしていこうという狙いである。

今年のテーマは「ドリブルのスキルと練習法」だった。私もこの重要な役割を依頼されたのに意気を感じて、世界基準を目標に今月無事終了した。内容は以下の通りである。

- 第1回 5月12日(日) 坂下東小 「トランジションにおけるスピードドリブル」
- 第2回 7月14日(日) 坂下東小 「キープドリブルからの1:1」
- 第3回 8月18日(日) 坂下東小 「ドリブルフェイク1:1(ボディフェイク)」
- 第4回 9月22日(日) 坂下東小 「ドリブルフェイク1:1(スイングムーブ)」
- 第5回 12月8日(日) 坂下東小 「プレス突破のドリブル(1:2)」

今回のクリニックを通してコーチの皆様特に伝えたかったのはドリブルの作り方であった。特に「ドリブルの3要素」を強調した。①ゲームライク(攻防の内容が盛り込まれ、トランジションの場面があり、勝ち負けの結果が目に見える)②ゲームシチュエーション(ゲームで現れる場面、場所、時間などをピックアップして、そこで使われるスキル、プレイ)③状況判断(状況判断のないスキルはゲームで使えない。常に頭を使い、判断させる)。

最後に、私のような爺コーチにこのような機会を6年にもわたって与えてくれた坂下ミニバスチームと「坂下バンビカップ」に参加した多くのチームの皆様感謝したい。